

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第9号(2007年8月10日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第5回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第10回研修会のご報告
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第11回研修会のご案内
- 5 中四会員紹介 NPO法人山口発達臨床支援センター理事長 川間 弘子先生
- 6 編集後記 ~ご登録アドレスのご確認を~



1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 猪木 省三

残暑お見舞い申し上げます。会員の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

前支部長・幹事の山崎晃先生がご都合により辞任されたため、2007年5月の支部総会において、後任の支部長・幹事となりました、猪木省三と申します。任期は残任期間である2008年度までの2年間です。

山崎先生には、2003年4月の支部会発足以来、支部会の支部長・幹事として、会の運営・発展にご尽力いただきました。支部の会員数も発足当初の2倍以上となり、100名を超えております。この間、支部会規程の整備をはじめ、これまで10回を数える支部会主催の研修会、各地区での事例検討会の開催などを進めてこられました。その結果、支部会の活動は、発足後4年あまりにして、安定した軌道に乗った状態となっております。

山崎先生の多大なご貢献に対して、あらためて感謝と敬意を表したいと存じます。

さて、山崎先生の後任となりました私は、専門的な研究あるいは日頃の活動においても、山崎先生に遠く及ばないことはもちろん、会員の皆様を代表するにふさわしい者であることにも確信は持てません。しかしながら、役割を与えていただいた以上は、支部会がこれまでの活動を維持するとともに、さらに一層の発展ができるよう、また会員の皆様のご要望を少しでも実現できるよう、微力ながら役割を果たして参る所存です。

会員の皆様のご支援、ご協力、ご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。

本年度第2回目の研修会を、9月上旬に鳥取地区で開催する予定です。鳥取地区の会員の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、会員の皆様の、幅広い、多くのご参加を、何卒よろしくお願い申し上げます。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第5回総会のご報告

2007年度中国・四国支部総会を以下の通り行いましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 2007年5月26日(土)13:00～14:00
2. 場 所 広島県生涯学習センター制作室
3. 議 題

(1) 2006年度活動報告

1. 2006年度支部総会の開催 2006年度活動計画及び予算について審議・了承
2. 研修会等の開催 6月(広島)・2月(岡山)・3月(広島)に支部主催の研修会を開催
3. 会報の発行 研修会報告などを掲載し2回発行
4. 役員会の開催

(2) 2006年度会計報告

会計監査2名の監査報告とともに、下記の通り決算報告は承認されました。

2006年6月～2007年3月会計報告

科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
収入の部			支出の部		
支部会費	166,000	172,000	研修会等開催費	250,000	97,598
利子	15	390	郵送費	16,000	1,500
臨床発達心理士会補助金	0	0	事務費	3,000	0
仮計	166,015	172,390	事例報告会等経費	45,000	0
前年度繰越金	473,885	473,885	予備費	20,000	0
合計	639,900	646,275	仮計	334,000	99,098
			次期繰越金	305,900	547,177
			合計	639,900	646,275

(3) 2007年度活動案計画

1. 総会の開催
2. 研修会の開催
3. 会報の発行，ホームページへの活動等の情報を掲載
4. 事例報告会の開催
5. インターネットの利用・活用の促進
6. その他必要な活動

(4) 2007年度予算案

下記の通りの予算案が提出され、承認されました。

科 目	予算額	科 目	予算額
収入の部		支出の部	
支部会費	166,000	研修会等開催費	250,000
利子	15	郵送費	20,000
臨床発達心理士会補助金	200,000	事務費	3,000
仮計	366,015	事例報告会等経費	45,000
前年度繰越金	547,177	予備費	20,000
	913,192	仮計	338,000
		次期繰越金	575,192
		合計	913,192

(5) 役員辞任と役員選出について

支部規程第9条に基づき役員を選出が行われました。支部長には、辞任の申し出があった山崎晃氏(明治学院大学)に代わり、猪木省三氏(県立広島大学)を選出しました。任期は2年。なおニューズレター，ホームページ担当として猪木省三氏に暫定的に兼任していただくことになりました。

以上、総会出席者15名，委任状45名，計60名(支部会員総数105名)で、過半数の承認により総会は成立致しました。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第10回研修会報告

2007年5月26日(土), 広島県生涯学習センター制作室において, 中国・四国支部第10回研修会が開催されました。講師として津川秀夫先生(吉備国際大学心理学部臨床心理学科・准教授)をお迎えし, 「発達支援にいかすブリーフセラピー」と題してご講演頂きました。

ミルトン・エリクソンの知見や技法を実践しやすいように編成したブリーフセラピーアプローチを, 発達をめぐるさまざまな課題にどのように活かして, 子どもや保護者と関わるかについて, 具体的な事例や巧みな例えを交えてお話し頂きました。まず参加者のニーズに合った研修内容にという配慮から, どのような職種の参加者がいるのか, 何に興味をもっているかについて聞き取りをして下さり, その後, 理論的枠組みやエリクソン派の流れに触れながらブリーフセラピーの基礎, 参加者同士の実習などを通して, よい聞き手になること, 子どもへの関わり方などについてお話を伺いました。



参加者数は15名, 臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

参加者数は15名, 臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第11回研修会のご案内

中国・四国支部の活動として次のような研修会が開催されます。何かとお忙しい時期ですが, たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。

(1)日時: 2007年9月8日(土) 13:00~16:10

(2)場所: 鳥取大学生涯教育総合センター 教育実践室

〒680-8551 鳥取市湖山町南四丁目101 鳥取大学地域学部

(3)研修テーマ 「臨床発達心理士による発達障害児への支援」

13:00~14:00 「乳幼児期における発達アセスメントと支援のあり方」

講師 寺川志奈子 先生(鳥取大学地域学部准教授, 臨床発達心理士)

14:00~15:00 「発達障害児のフォローアップ: 思春期への過程において」

講師 神谷育司 先生(名城大学名誉教授, 臨床発達心理士, 臨床心理士)

15:10~16:10 フリー・ディスカッション

研修会の参加者ポイントはA区分1ポイント(3時間)です。



交通 JR山陰本線鳥取大学前駅から徒歩3分

車で来られる方は, 大学正門よりお入り頂き, 守衛室で手続きをお済ませ下さい。駐車場は生涯教育総合センターの正面です。

問い合わせ先

神谷哲司先生まで(FAX・E-mailが確実)

TEL/FAX 0857-31-5074(直通)

E-mail: kamiya@rstu.jp

特別支援教育に関わるセンターの理念

当センターは、平成7年3月、「個別の学習指導をして欲しい」という5人の保護者の声を受け始めました。あれから12年が経過し、自閉症、3歳、4歳だった自閉症、ダウン症の子どもたちは今では私を追い越すほど大きく成長しています。現在は150名の子どもたちが利用しており、活動内容も多岐に渡ってきています。

当初からの理念は、「つなぐ役割」であり、「子どもを取り巻く支援者の横のつながり」「乳幼児期から青年期に至る一貫した支援である縦のつながり」がスムーズにいくためのつなぎ役になりたいという思いでした。（今では個別の教育支援計画作成によりあたり前の考えとして浸透されていますが...。）それまで学校現場にいて、毎年担任が変わる度に指導内容・方法が異なること、子どもの状態がうまく引き継がれていないこと、また、園から学校、学校から園への情報もうまくされていない現状を痛感し、人生の流れの中で生きている子どもたちが、断片的な対応を受けていることに疑問を感じていました。年齢も障害の種別も程度も限定することなく必要と感じる方へ、主に学習支援を中心に、系統性をもった指導内容のもとで、実態に応じて指導課題を設定しながら指導を行ってきました。「臨床支援センター」名称の「支援」は保護者への支援でもあり、センターでは保護者に学習空間に同席してもらい、指導者とのやりとりを記録にとってもらい、1時間弱の指導の中での小さな発見を逃さない目をもってもらうことを期待しています。子どもの小さな変化を逃さない目をもつことは、家庭での小さな変化を捉える目になり、発見の喜びはそのまま子育てのエネルギーにつながります。学習支援はそのまま子育て支援になっています。

この12年間で、障害の多様化を感じています。150名の内、発達障害の子どもが約半数を占め、学童期の子どもたちの数が増えており、これは何を示すのか...。個別の学習指導から始めたものの、集団行動が円滑にいくためのソーシャルスキルの力を必要とする子どもたちも増えてきたため、小集団での学習も始めました。その中では、注意喚起課題、注意記憶課題、ルール性のある遊び、指先の巧緻性の課題、算数・国語の補習と5つの柱で進めてきました。今年度の報告集で、この5年間の実践とスキルトレーニング課題の系列をまとめたものを記載しています。

このような「子どもの一貫した縦の支援」に比べ「横のつながり」はかなり難しく、それぞれの組織が異なることが大きな壁になっていました。そして考えついたことは、「学校丸ごと支援」。お互い同等な関係が難しいならば、学校丸ごと支援の対象にしようとする考えでした。ひとりの子どものことを先生方に理解して欲しい思いからの発想が形となり、団体利用会員制を導入しました。

ほんの一部の紹介でしたが、「この子にこれが必要」と思い、形にしてきた12年間です。ですから、これからの方向も活動内容も予測が立ちませんが、こんなスタンスで進んでいくことと思います。

6 編集後記 ~ご登録アドレスのご確認を~

残暑お見舞い申し上げます。中四国支部会報第9号いかがでしたか。会員のみなさまには会報をはじめ、総会、研修会などの情報提供をメールで行っていますが、一部の方のメールが不達となって戻ってきております。ご登録アドレスに変更がある場合は事務局までお知らせください。また、メールでの情報提供を新たに希望される方も、事務局までアドレスをお知らせください。可能な限り郵送費等の経費節減にご協力頂きますようお願い申し上げます。

中国・四国支部会報では、今後も会員相互の情報交換等に役立つよう、バラエティのある紙面作りをしたいと願っております。引き続き、会員の皆様から「会員紹介」「耳より情報」など、自薦他薦を問わずご投稿を広く募っております。気軽に奮ってお寄せ下さい（宛先：yashima_sanyo.ac.jp：Emailご利用の際は、 を@にかえてご入力ください。）。
（編集委員会）